

<水球陣> 関東学生リーグ第一戦

H28. 5. 21 対一橋大学 @専修大学生田プール

東大 3 2 4 5 計 14

一橋 2 0 3 4 計 9

得点者：池亀 (1)、石田 (1)、梶原 (2)、細江 (7)、山田 (2)、岡 (1)

関東学生リーグ、重要な初戦。今回の相手は格上ではないため、余裕をもって勝利をおさめ、今後の試合に弾みをつけたい。

第1ピリオド

一橋がセンターボールをとってスタート。開始直後いきなり得点を決められるが、その後細江が退水を誘発し、梶原が落ち着いて初得点を決める。退水セットで一橋に再び得点を取られたあとは、両者得点が決まらず、膠着状態に入る。そんな中、細江がフローティングからのシュートを決める。勢いに乗る東大は、梶原の華麗なパスから石田がハンツァーを決め、得点を重ねた。しかし、その後、なかなか得点を決めることができず、3-2で第1ピリオドが終了した。

第2ピリオド

再び一橋がセンターボールをとって第2ピリオドが始まる。東大はカットからのカウンターを幾度と仕掛けるがなかなか決まらない。そしてついに、退水セットで山田が豪快なミドルを放ち、得点を奪う。東大はその後もカウンターやフローターへのパスインで、決定的な場面をつくるが、なかなか枠を捉えきれない。もどかしい展開が続く中、山田からのパスをうけた岡がフローティングからシュートを決めた。このピリオドは、一橋を一気に突き放すことこそならなかったが、宮内のファインセーブと相手からのパスカットで、無失点に抑えることができた。

第3ピリオド

東大がセンターボールをとって第3ピリオドが始まる。両者ともに得点が取れない状態がしばらく続いたが、細江がフローティングからのシュートを決め、流れを引き寄せた。細江が3連続シュートを決め、さらに山田がミドルを決めて、9-2と一橋を突き放すことに成功する。この時点では、試合の流れは完全に東大にあると思われた。しかし、得点差が開き、気が緩んだのであろうか。東大の退水やパスミスが目立ちはじめ、一橋に3連続得点を許してしまった。

第4ピリオド

東大がセンターボールをとって第4ピリオドが始まる。開始から1分30秒後、細江がフローティングからシュートを決め、このピリオドの先制点を奪う。さらに、細江がまたもシュートを決め、東大が連取に成功する。だが、一橋も必死に食らいつく。ドライブやカウンターから今度は

一橋が3連続得点。この嫌な流れを断ち切ったのは梶原だった。池亀からのパスをもらった梶原がドライブからシュートを決め、得点を奪う。続いて山田が退水を誘発し、無難にシュートを決めたのは池亀であった。東大の勢いは止まらない。山田からのパスを受けた細江がまたしてもフローティングからシュートを決め、この試合7得点を挙げた。その後、一橋にミドルを決められ、第4ピリオドは5-4で終了した。

試合前の予想に反し、大差をつけての勝利というわけにはいかなかったが、関東学生リーグの初戦を白星発進できたのはよかった。東大は完全に流れをつかむことはできなかったものの、逆に一気に相手に流れをもっていかれてしまうということもなかった。一方で、シュートの決定率の低さや、控えに変わったときの試合運びなどの面で、課題も見つかった。最後になりましたが、監督をしてくださった疋田さん、応援してくださった吉田さん、藤本さん、お忙しい中どうもありがとうございました。

(文責 荒川祥吾)